



シーニックバイウェイ北海道 20年の歩みと展望

ー全国に広がる地域づくりのモデルー

北海道開発局 建設部 道路計画課

1. はじめに

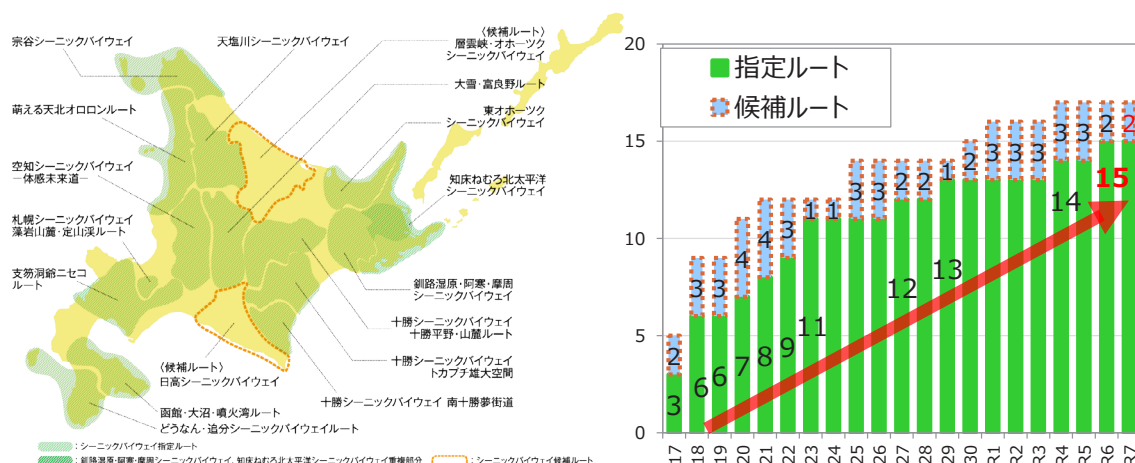
道路は地域の暮らしと経済を支える基盤であり、人と人、地域と地域をつなぐネットワークとしての役割を担うとともに、まちの骨格を形成し、景観や環境を創出する空間としての機能も持っています。広大な北海道においては、国道をはじめとする道路ネットワークが、人々の生活の命綱としての役割を果たし、観光や物流の基盤として地域の発展を支えてきました。

こうした背景のもと、平成17年（2005年）、全国に先駆けて北海道で誕生したのが「シーニックバイウェイ北海道」です。その後、この取組がモデルとなり、国土交通省により全国制度として「日本風景街道」が展開されました。地域が主体となり、行政や企業と連携して活動を進めるこの仕組みは、わが国の風景街道運動の先駆的モデルとして歩みを始めました。

2. 二十年の歩み

この二十年間で得られた最大の成果は、何よりも地域で活動が続けている団体の存在です。「景観」「観光」「地域づくり」を三本柱として、それぞれの地域資源を磨き上げてきた取組は、訪れる人々の心を動かし、地域の魅力を高めてきました。こうした積み重ねこそが、北海道が全国に誇る地域力であり、シーニックバイウェイ北海道の根幹を支える力となっています。

現在、15の指定ルート、2つの候補ルートがあり、約500団体が自主的かつ主体的に地域への想いを原動力として活動が続けています。行政・企業・地域が垣根を越えて築いてきた「共創」、すなわち人のつながりが、この二十年を支えてきました【資料1】。



資料1 シーニックバイウェイの指定・候補ルートの推移

行政と地域が課題解決を共に考えながら歩みを進めてきた活動のひとつとして、地域が誇る景観を有する道路を磨き上げ、観光資源として活用する「秀逸な道」の取組が生まれました。これは道路管理者と活動団体による官民一体の成果であり、今後の持続的な発展を支える基盤となっています【写真2,3】。



写真2 行政と地域による景観診断

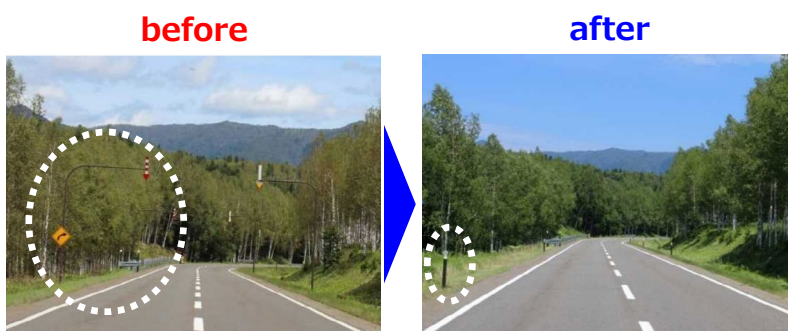


写真3 行政が矢羽根を視線誘導標に変更、景観を改善

これらの地域活動からは、模範的かつ将来性を高く評価できる取り組みを選出し表彰する「ベスト・シーニックバイウエイズ・プロジェクト」の制度が生まれ、これまでに90件が顕彰されています。さらに企業や関係機関との連携により、レンタカー利用促進やドライブ観光の拡大、情報発信の高度化なども進展し、企業協賛による景観活動や周遊企画など、人のつながりによる新たな価値創出の取組も広がっています。こうした積み重ねは、シーニックバイウエイ北海道が「制度」ではなく「文化」として根づきつつあることを示しています【写真4】。



写真4 各ルートにおける地域活動（花植活動や雪かきボランティア等）

令和6年度には、シーニックバイウエイ北海道がグッドデザイン賞を受賞しました。形のない活動が「デザイン」として社会的に認められたことは、大きな節目となりました【写真5】。



写真5 シーニックバイウエイ北海道の取組を高く評価「グッドデザイン賞」受賞



3. 全国モデルとしての意義

シーニックバイウェイ北海道は、地域・行政・企業が垣根を越えて協働する仕組みをいち早く確立し、その取組みは全国各地へと広がりました。道路整備を単なるハード事業にとどめず、地域の景観形成や観光振興と結びつけるソフト施策と組み合わせた点に大きな特徴があります。

無電柱化の推進やビューポイントパーキングの整備など、道路を地域の景観や観光資源として活用する取組も進められています。これにより、道路は「通過の場」から「地域の価値を高める舞台」へと変わりました。また、こうした活動を通じて生まれた信頼と連携のネットワークは、“ハード”を超えた“ソフトのインフラ”としての社会的価値を生み出しています【写真6】。

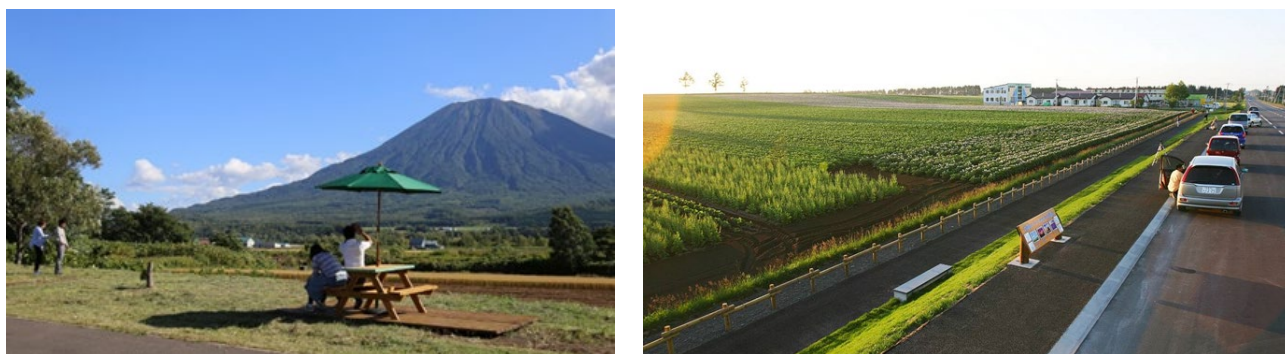


写真6 無電柱化やビューポイントパーキングなど視点場の創出

その本質は「人のつながり」にあります。地域と行政が共に汗を流す中で信頼が醸成され、「楽しい活動でなければならない」という精神が継承の基盤となっています。この理念が地域の誇りを育み、持続可能な地域づくりの原動力となっています。

4. 国際的な広がり

令和7年（2025年）6月に開催されたシーニックバイウェイ北海道20周年記念フォーラムでは、約250名が参加し、これまで歩んできた地域のソフトインフラとしての成果を振り返るとともに、新たな「シーニックバイウェイ・カルチャー（“ひと”と“みち”が共に育む文化）」の発展について、次世代の担い手の皆さんと共有する機会となりました【写真7】。



写真7 岩田会長、坂場前北海道開発局長、石田委員長がこれまでの取組と今後の可能性を語る

また、米国コロラド州「シーニック&ヒストリックバイウェイズ・コミッション」との基本合意書を締結し、国際的な連携の第一歩を踏み出しました。北海道発の取組が世界へと広がり、新たな交流と学びのネットワークを形成しつつあります【写真8】。



写真8 コロラドシーニック&ヒストリックバイウェイズ・コミッションと基本合意書締結の様子

5. おわりに

シーニックバイウェイ北海道の20年は、地域、行政、企業が共に築き上げてきた「人の力」の歴史です。その歩みは、道路のあり方を変え、北海道に新たな文化を根づかせてきました。これからも北海道開発局では、地域の皆様と共創し、暮らしや観光を支える道路整備、そして地域の誇りを育むシーニックバイウェイの活動を進めてまいります。20周年の節目を新たな出発点として、北海道から「シーニックバイウェイ・カルチャー」を発信し続けてまいります【写真9】。



写真9 多くの関係者によって支えられ、これからも進化を続けていきます

<脚注・リンク>

- 1) シーニックバイウェイ北海道推進協議会 HP https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/kn/dou_kei/ud49g7000000n0ut.html
- 2) シーニックバイウェイ支援センター HP <https://www.scenicbyway.jp/>